

1910-60年代に 雁木改修・建築

西区の特定非営利活動法人(NPO法人)雁木組が、広島市中心部に残る雁木の歴史調査の結果、中区の稲荷大橋から栄橋までの京橋川右岸約600mにある15カ所の雁木は、1910年代から60年代前後に改修、建築された可能性が高いことが分かった。(小川満久)



雁木や護岸の写真を並べ、中間まとめの作業をする川后さん(右)ら雁木組メンバー

運航する「雁木タクシ」を使い二〇〇五年十一月からスタート。建設時期を推測しやすい、雁木の左右の護岸の石積みから調べる手法を取った。積み方やモルタルの使用の有無から年代を割り出し、時代ごとに六区分した。二番目に古い石積みには船を係留する金輪が、最古一五番目には、原爆の熱線の影響によると見られるはく離あとも確認できた。

ご準備は
平安祭典
295
1111

西NPO 中区の15カ所調査、判明

今後、雁木や石積みに関する文献収集や調査も始め、現地調査とのすり合わせ作業を進める。中心メンバーで、広島大学院一年川后のぞみさん(23)「安佐南区」は「雁木と市民のつながりや、戦前の暮らしぶりをうかがう研究につなげたい」と意気込む。

結果は十八日から二十五日まで、中区の旧日本銀行広島支店である「ひろしまの水辺百年展」で披露する。A3判の写真五十枚を、パネルマ状に並べ解説を付けた。